

# 学校関係者評価報告書

2024年度 自己点検・自己評価

2024年度 学校関係者評価

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)評価報告

# 2024年度 学校関係者評価

■評価委員会実施日 令和7年6月10日(金)

■場所 大村美容ファッション専門学校 理事長室

■学校関係者評価委員<企業代表> 株式会社 ぼたんや 佐藤 武昌 様  
津田産業株式会社 津田 鶴太郎 様  
前学校長 斉藤 ちづる 様

<卒業生代表> 有限会社 ダム 隈本 達也 様

<近隣代表> 黒門東部自治会 西木 友世 様

<保護者代表>

美容科2年保護者 橋本 麻衣 様

ファッションクリエイター科1年保護者 緒方 正隆 様

<学校代表> 理事長 大村 陽之介

学校長 萩野 清美

事務長代理 吉田 公包

事務局より「学校関係者評価委員会」開催の目的について説明

専修学校において学生が専攻する実技や技能、知識の習得、国家資格の取得など専門課程における職業教育水準の維持と向上を図ることを第一目標としています。

変化が著しい現代において固定的な概念を廃し、変化に柔軟な対応が出来るよう、より良い学校運営を図るために当委員会を開催し、外部の各関係分野における皆様方のご意見を取り入れさせて頂き、専攻課程の更なる充実と学校経営の透明化を図るために同評価委員会の実施意義目的としております。

## 2024年度 自己点検・自己評価の説明

### ■2025年度 事業計画と総括

#### 1、2030 年に向けての中期目標

今年は残念ながら入学者目標を僅かに達成できませんでしたが、昨年下半年より広報活用の体制を大きく変更し整え新体制として2024年4月にキャッチフレーズを「SHIN」と命名し広報発動の刷新と新体制による活動を始めました。既卒の方や高校3年生をターゲットとして活動していた昨年から今期より高校2年生、1年生の方々において当校へ興味のある学生の取りこみ戦略を建て、次年度以降は入学者数目標以上の成果と2～3年の間に大きく躍進した改革となると思います。

組織的にも2023年の4月からグローバルビジネス科をグローバルビジネス校として日本語学校を卒業した留学生方の就職支援のための再学習施設を充実させ再出発致しました。

数年前から「オオムラプロジェクト」を明言し、校舎改装・時間割変更・選択授業の充実など、

様々な事を変えてきました。

昨年10月からグローバルビジネス専門学校新校舎として5号館が稼働し、同校学生の新教室としてさらに多くの学生を受け入れています。

#### ◇センスの良いオオムラ

学費が高くても入学者を集められる理由のひとつは、間違いなく我々の中のオシャレに対する意識の高さでしょう。

卒業式などの式典、パワフェスやファイナルコンテスト、パンフレットなどの発行物、HP・Youtube・インスタなどSNSを駆使し、また小学校から大学まで、全ての学校と比べてオオムラがカッコいい。

そんなオシャレなオオムラをより進める為にデザインにこだわって欲しいと思います。

#### ◇オオムラプロジェクト

オオムラプロジェクトのスタート時には以下の事を掲げていました。

- ・授業時間の短縮
- ・選択授業と課外授業の整備
- ・部活の充実
- ・教育環境、校舎の整備
- ・広報の見直し
- ・働き方改革と人事考課の連動
- ・社会人を対象としたサービスや学科を作りたい

既に完遂出来た項目として

- ・部活の充実
- ・教育環境・校舎の整備
- ・広報の見直し
- ・働き方改革と人事考課の連動
- ・社会人を対象としたサービスや学科設立などが挙げられます。

中には完遂したもの並びに現在すでに着手し進行中の項目もあります。

まだ着手していない項目は数件ありますが、今後の運営上学生のためになる項目として有効か否かを再度検討しつつ推進していこうと考えています。

また、この中には無かった項目にも着手をしています。

では項目ごとにご簡単に説明いたします

#### ◇授業時間短縮

3年前から導入していますが、学習レベルの低下は見られず、授業効率が上がっていると評価できると思います。

ただし、美容師国家試験の合格率が低下している点があり、この点については真摯に受け止め改善すべき方法で模索を続けています。

クオリティを落とさずに時間だけを短縮させる為のキーワードは「自主性」と考えられます。学ぶ側本人に、その気がなければ上達しませんし、良いデザインなんて生まれる筈はありません。

遠隔授業は現在研究中です。

2025年から電子黒板を導入しました。今後個人別に配布するタブレット端末と連動することにより、より効率的な授業スキームを実現します。

◇部活の充実

- ・各科の専門分野を学べる機会がある
- ・好きな分野をとことん学べる

この矛盾する2点を各自が自由に選択できるようにしました。

美容・メイク・ファッションの学科を持つオオムラの特色が活かせるカリキュラムで他校が真似のできない、オオムラならではの好きな事が高いレベルで学べる課外授業と美容・メイク・ファッションそれぞれの専門家に近づく部活を充実させております。

◇校舎の改装と新設

2023年度は全館の空調設備の改修メンテナンスを進め、3号館とGB校のエアコン交換と天井の改装工事を進めました。

2024年10月より新館5号館は3階建てで、延べ床面積215坪、収容人数200人(グローバル校は午前と午後で授業を行っていますので総勢400人)ほどの規模となりました。

◇広報の見直し

先ほども報告いたしましたが、外部コンサルタントからも知恵を借り、広報の在り方や進め方を刷新しました。

3年計画で入学者1.5倍を目指し、広報事務局にも若いメンバーを迎え、改革を進めています。

◇人事評価と給与体制の改革

事務職の週1日のリモートワークは定着しました。

週2日のリモートワークの目標には届いていないので引き続き進めます。

人事評価制度と賃金制度を刷新し、若年層の給与を引き上げとベテラン層の上がり幅を少なくなるように改革し若い力の台頭とヤル気の向上につなげています。

結果として若手のやる気を引き出すことはもちろん、若い優秀な人材を確保する事に繋がったことと多くの方の応募もあり、新たな戦力を採用しています。

役職の改定も併せて行い、ベテラン層の教職員のモチベーションアップにつなげる事が出来ました。

随時評価者訓練、技術講習や訓練、外部講師を招き学生指導や臨床心理士の講義など様々な面からの教職員のスキルアップのための教育体制を充実させています。

◇大村グローバルビジネス専門学校

2023年4月にGB科を大村美容ファッション専門学校から、大村グローバルビジネス専門学校として独立させ、外国人留学生の募集や就職の活動がスムーズに行えるようになりました。

もちろんこれだけが理由ではないですが、2024年4月の入学生はGB科始まって以来最多の376名を迎える事が出来ました。

この実績が後押しし、新校舎設立に踏み切る事も出来ました。

## 2 学生募集目標について

- ① 美容・メイク・ファッション合計の入学目標330名に対し、入学272名で未達成  
早期進路決定が進んでおり、1・2年生で決定していく学生さんも多く、3年生にのみをターゲットとして広報活動が上手くいかなかったことが原因  
このことを次年度に活かす為、1・2年生の対応を取り入れ、目の前の入学数だけでなくその後に将来に続く広報活動を継続できるような体制として広報メンバーも新しく20代を入れ行っています。
- ② グローバルビジネス専門学校  
目標200名に対して、入学376名で達成  
やっとコロナの影響による日本語学校の卒業生減少から解放され、多くの入学生を迎える事が出来ました。  
人気校になっていますが、それに思い上がることなく学生満足度の高い学校を目指す努力を続けていきます。

## 3 教育課程の改革と改善

教育理念「一に人格二に技術」は不変です。  
2025年度も引き続き基本動作の「挨拶・返事・時間」を「挨拶・時間・自立」に改めるとともに個性が重視される現代において、  
自分はどうなりたいのか？  
自分の強みを生かすにはどうすればいいのか？  
を考えさせる教育に取り組むため変更課題として挑戦を続けています。

## 4 教育目標達成の為の方針

- ① 人格育成の徹底と進化
- ② 出席率を上げる
- ③ 選ばれる人材育成
- ④ 外部コンテスト参加等、教育の質を上げることで教学の質に磨きを掛けていく。

## 5. 管理部門の目標管理

- ①学校資産の有効活用を期して、銀行対策、不動産対策を行なう。
- ②予算委員会・予算執行管理の精緻化で、管理経費の削減の徹底。
- ③本校卒業後の奨学金返還を推進する。
- ④教職員の健康管理。福利厚生情報の提供、働きやすい環境整備を図る。
- ⑤事務部門における生産性の向上と効率化の一環として事務員相互業務支援体制づくりと既存書類のデータ化デジタル化や効率化業務の添削とアプリ等の導入による簡素

化など時代に即した業務体系と体制に移管していきます。

## 6. 学校運営財務報告 学校運営事業についての収支報告ご説明

学校運営収支部門は、寄附行為であり収益については、外部講師の雇用と教職員の増員境域体制の充実学校運営と設備の改修並びに老朽

化部分の改修工事費用、空調関連改修、新規タブレット購入や教育教材備品購入、学生用のデスクや椅子などの設備備品の改修、取り換えなどへ流用しております。

## ■評価項目の達成及び、取組状況

### (1)教育理念・目標

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切…2、不適切…1			
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
② 学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	④	3	2	1

#### ① 課題

本校の教育目標は「業界を牽引する人材を育成する」であり、このベースとしている教育理念は「一に人格 二に技術」です。

この理念等の周知について、学生は新入生導入時研修を通じ、また、保護者に対しても、体験入学時の保護者会、新入生歓迎式、一年次保護者会などを通じて、ご理解いただくため徹底してきました。

特に一年次では、毎日の授業を通じて理念の具体的行動化を図り、二年次では、基本動作(挨拶・時間・自立)と5S(整理・整頓・清掃・清潔・作法)に加え、自分らしさを表現できるよう指導しています。

また教育理念等の考え方を明記した学生便覧を入学時に学生に配布し徹底しています。2013年10月から学校関係者評価結果や事業報告・財務状況なども公開しました。これを引き続き継続中です。

業界のニーズの把握については職業教育機関としてきわめて重要と考えています。特に教育課程編成委員会や外部講師等を通じ、また産学協同教育による機会を通じて、常に把握するように努めています。

また、社会経済のニーズと学校の将来構想については、学校法人として極めて重要な課題と捉えています。

少子化はいうまでもなく、本校の主力学科である美容分野については、美容師試験の受験者数(全国)で見ても、ピークの 2004 年には 29,840 名であったものが、2022 年度は 19,505 名と、10,335 名も減少しており、学校法人として、この美容分野以外の学校又は学科の展開を考えないわけにはいきません。

しかしながら近年の動きをみると 2019 年の 17,288 名を底に 2020 年 18,170 名、2021 年 18,563 名と増加し続けている。

この現象を楽観視することなく、引き続き他分野の展開を考えたい。

一方、高等教育機関と日本語教育機関に在籍する留学生はコロナ禍の期間を除くと増加の一途をたどっています。また国も留学生受け入れを推奨する政策をとっており、よほどの事がない限りこの増加傾向は続くと思われます。

留学生をめぐる法改正も頻発しているので、今後も日本の社会適応力と高等レベルを鑑みた留学生教育を進めて参ります。

## ② 今後の改善方法

今後の美容・メイク・ファッション学科において、学内実習や学外インターンシップの到達目標を明確化し段階的な教育目標を定め、企業との連携の中で具体的能力取得を計画的に図っております。

また、主体性を伸ばす教育手法(アクティブラーニング)を活用することによって、学びの楽しさを感じさせ、学生相互の学びの質の向上を図ります。

キャリア教育について、特に入学後の早い段階から、各職業の業務の実態や必要な能力を十分理解させ、明確な目的意識を持たせた上で、一人ひとりのキャリア形成を支援していきます。

学生には、キャリアプランニング能力や、課題対応力が求められるところですが、現状の学生の目的意識はまだ漠然とした状態であることも否めません。

そこで教職員のキャリア教育研究プロジェクトを立ち上げ、「キャリアデザイン」の授業改革・従来の就職指導研修から、キャリア教育研修への改革を目的として努力を継続しています。

このプロジェクトの結果として、通年でのキャリア教育カリキュラムの始めに、自分自身を見直すために、教材「職業とキャリア」の活用や精神就労のための座禅体験などのカリキュラムも導入されています。

## (2)学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1

③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	③	2	1
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

## ① 課題

運営方針については、各年度の事業計画として、学校・部門・学科まで策定しています。  
ただ運営方針に基づいた計画の精度については、部門、学科により問題意識や精度に於いて差があり、学校が目指す中期構想や当年度方針を、部門ごとにどこまで緻密に計画し、PDCAサイクルを好循環させるかが課題です。

意思決定機能は、組織的に、実質的に機能しています。  
評議員会・理事会を法人の意思決定機関として、学校においてはキャビネットを意思決定の最高機関とし、その下に課長会議・部門会議等を置いています。

人事評価制度は2022年4月から新たな制度を作り、2023年4月から本格的に評価方法と報酬の改正をスタートし3年を目途に職場への浸透を進めております。  
半期ごとの見直しを進めるとともに現場職員の意見聴取や実際の育成対応支援を推進し2025年度内での人材育成制度として育成を基軸とした制度への再編を進めています。

学校教育法並びに専修学校設置基準におけるコンプライアンスは常に遵守しています。  
業界・地域社会を交えたコンプライアンスについては、学校関係者評価を企業代表・近隣住民代表に御参画戴き、情報の公開もWEBを通じて実施しています。

情報のシステム化は随時進めております。

- ・学生募集管理システム
- ・在校生管理システム
- ・経理システム
- ・学費管理システム
- ・就職情報管理システムとして効率化推進しております。

長年の課題であった個人情報のシステム化が進み、入学前・在校時・卒業後まで一元化ができるようになりました。  
但し、まだ就職の情報などとのリンクが出来ていないので、引き続き改善を進めて参ります。



## ② 今後の改善方法

- ア. 人事・労務関係各規程の整備。
- イ. 学校関係者評価継続実施
- ウ. 情報管理システム改訂研究開発と実践化。

## (3)教育活動

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切…2、不適切…1			
① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ・実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

## ① 課題

カリキュラムについては、2011年度より各教科課程のシラバスまで明文化し、学生便覧として在校生に配布・説明・周知徹底しています。

また教育課程編成委員会を通じて、企業等の意見を反映して、企業ニーズを認識したも

のとしています。ただ資格取得のための教育時間の限定もあることから、必ずしも企業の求めるレベルに到達しにくいという現実もあります。

職業教育=即、戦力として役に立つ知識・接客力・技術など、企業連携を図って実施することと現場体験することにより、企業様から求められる基礎知識力や接客力について更に深く学ぶことが出来、学生が実態として経験実感することが出来ました。

産学連携のインターンシップについてはかねてより重視してきており、教育効果も高く、継続して実施しています。

県内のみならず、関東・関西でのインターンシップも行い早い段階 1 年生より他流試合を行うことで、学生の就職意欲の向上にも繋がっております。

今後も、その深耕を目指して、就職内定後の内定企業でのインターンシップの強化と企業が求めるレベルや技術、人柄や社会適応力などを研究し学生のために活かしてまいります。

カリキュラムを体系化し、修業年限に対応する教育到達目標の明確化を図るために取得単位を明確にして、学生便覧に明記され、周知徹底しています。

授業評価の方法として、各学年に各一回全学生対象・各クラス代表科目12科目の授業アンケートを実施しています。無記名、PCを使った入力で、匿名性に配慮し、なるべく実情の把握をできるようにしています。この結果をもとに、各クラス別に学校長はじめ学校側と学生代表3名による、授業評価分析委員会を実施しています。数値だけでは判断しにくい、授業に対する学生の要望などを聴取できる有意義な委員会です。ここで出た意見は担任教員・講師にフィードバックして、授業の改善に取り組んでいます。

2024年度の学校平均は、5 点満点の4. 6で前年より0. 2ポイント上がりました。

要因としては、外部講師や教員の授業での対応力・指導力が少し向上し、ウェブでの授業やビジュアルでの授業を多く取り入れた結果かと思います。総体としては毎年更新している授業指導ノートを基本とし教員の意識も上がり、この授業アンケートを利用し授業の満足度向上が図られています。

教職員の研修については、各課長や教員の希望により、精神面での学生指導や対応が難しくなっており、対策として臨床心理士を招き勉強会を2回行いました。

その結果、学生対応の方法や保護者への対応など、多くの事を学ぶことが出来、教員のスキル UP に繋がっております。

教職員の研修履歴については学校長秘書担当が管理をし、全教員の教育機会均等・強化ポイントの把握など、定着して深耕されています。

## ② 今後の改善方法

ア. 学校関係者評価の継続実施。

イ. 教職員研修の強化。特に専門知識・技術分野の強化。

#### (4)学修成果

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
② 資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
③ 退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

##### ① 課題

就職率について、昨年は進路変更を除く就職希望者の100%でした。

学生の将来を考える時、各企業の経営理念・方針・人事制度・定着率等を勘案した就職指導が必要で、SNS やネットでの求人情報だけでの判断ではなく、インターンシップなどを活用し現場の状況をしっかりと認識させ、ミスマッチを防ぐ取り組みを行っております。

インスタグラムによるサロン探しが、普及する中での指導法も課題と言えます。

学生の職業意識(理想と現実の乖離に対する耐性も含めて)をいかに高く持たせるかが、最大の課題と言えます。

退学率、前年度は6.1%とでしたが本年度6.5%と0.4上がりました。

退学する主たる理由は、「学校生活不適応」「病気」「金銭的」が大きな要因です。

就学支援で入学してきたものの、途中で不採用になるケースが多く、進級辞退者が増えました。授業に対してやイベントに関しては等学生の学ぶ意識の向上を図り、学生が目標意識を持ち学ぶ楽しさ、働く楽しさを体験・体感させ成功体験を多くしていくことが課題と思われます。

資格取得は、全科で37の資格を設け100%を目指し指導しております。

美容・TOPは24の資格中、合格率96.3%メイク8つの資格中、合格率84.3%ファッション5つの資格中、合格率74.1%が本年度の結果となります。

2023度は29の資格取得数でしたが、2024年度は8つ多く、資格取得に意欲的に取り組んでいる結果が出ております。

2024年度も学習成果として、多くのコンテストに参加することが出来ました。

結果は以下の通りです。

チャレンジ精神を忘れず入賞実績を残すことが出来たことは学生達の日頃の努力によるものです。

##### ② 今後の改善

本年度は出席率をあげる努力を行ってきました。次年度は成功体験や成長を褒め、他者

との関係性を持つことに困難を感じる学生対策や声掛け・褒めるタイミングなどを習得強化し、学生の目標を明確にして学習意欲・向上意欲を持たせ、学べる楽しさを学生へ理解させるなども含め担任教員による個別指導も徹底していきます。

保護者様とのコミュニケーションを図り協力体制をつくりと共になるべく早く問題兆候を発見することと早期解決を図ります。

目標を設定することも大切かと思いますので、各科で目標を置きそこを目指して取り組むように行ってまいります。

ファッション分野でのコンテスト出場は行っておりますが、受賞出来ておらず今後は学生が結果を出すための作品指導を行ってまいります。

## (5) 学生支援

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
② 学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
③ 学生に対する経済的な支援	④	3	2	1
④ 体制は整備されているか	④	3	2	1
⑤ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
⑥ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
⑦ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
⑧ 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
⑨ 卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
⑩ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	②	1
⑪ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

### ① 課題

各部門の進路・就職指導については、担任・就職企画室にて、全員が目指す業界への就職活動を取り組み、求人情報収集、案内、キャリア教育・内定獲得のための支援活動を行ってきました。

学校全体として就職率は98.0%でした。(進学、留学、非就職(健康面)、他業種 除く)卒業時に就職内定が出ていない学生に関して卒業後も就職指導のフォロー体制を整え、学内企業説明会への参加促進など学生への情報提供、就職指導を継続して行います。

就職支援のサポートはクラス担任が学生支援を中心に行い、就職企画室は企業様との関係構築とフォロー体制、教務との連携など組織体制は整備しています。

求人情報の提供はキャリアマップ、エジョブなどの企業情報閲覧システムを活用。

いつでも閲覧できるように整備しています。

SNSによる求人情報の発信などの各企業様の情報提供の方法も変化してきました。企業の求人活動の早期化がより明確になり、就職指導スケジュールの再調整などが必要になっております。またリクナビ、マイナビでの求人活動、情報収集、学生進捗状況確認など細かく指導を強化しております。

学内企業ガイダンスは通常開催にすることが出来ました。人気企業様に参加いただけるように就職課担当者からの企業アプローチを行っており多くの企業様にお越し頂けるよう調整を行いました。

インターンシップの参加促進を強化し、美容科は3日間、TOP科は4日間、メイク科はBA・MAと希望に合わせて企業様ご協力いただいています。ファッション科、ファッションクリエイター科は企業様の開催するインターンシップを活用して学生の参加を実施しております。

学生の活動に合わせたインターンシップの参加促進など、早期選考の企業様の採用スケジュールに遅れることの無い様進めています。オンライン面接対策を強化し、また自己PR動画の課題は、外部から講師を招き対応力の向上を促進しています。

特に学生からの相談に対する体制を整備し、学生の生活、修学の支援など様々な相談に教職員全員で対応しています。

経済面の支援について学費の納入においては個別の事情に応じ、柔軟に納入時の延納、分納などの対応を行いました。

給付奨学金を含む修学支援制度については、貸与奨学金と併用して利用するなど多くの学生、保護者にもスムーズな情報の発信と対応を行っています。

昨今の世情から奨学金利用者は年々増加傾向にあり、保護者及び学生本人の奨学金に対する御理解と正確な認識が求められるため、スクリレを活用した情報提供の強化を進めています。

これにより学生並びに保護者様へのタイムリーな情報提供ができる環境を整えました。

年間の授業計画の中で保護者会、三者面談と共に本年度全学科合同コンテストを開催し保護者様へ学生の成長を見て頂いております。保護者様には大変満足度の高いイベントとなりました。

卒業生の方に対しても就職先企業様での在籍や離職の状況等、情報の収集を行っております。

高等学校への訪問をさせて頂くとともに学生の皆様にとっての大切な募集応募の要素である企業情報と共に格好で何を身に付けられるかなど将来に向けた説明会を進めています。これは広報の主幹業務として年間を通じ定期的にガイダンスや説明会を行っておりまして、高校の先生方との信頼関係の構築なども併せて強化しています。

総合学習支援も推進し、出張授業を実施することで美容、メイク、ファッションの業界を目指す学生の皆様に対し、早期の意識付けなどにも積極的に取り組んでいます。

## ② 今後の改善方法

ア. 学校健康安全法に基づくコンプライアンスの強化

イ. 就職指導の支援体制の強化(SNSの活用)

ウ. 卒業後の支援体制の組み立て

## (6)教育環境

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④	3	2	1
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
③ 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

### ① 課題

3棟ある校舎は、竣工から30年、22年、19年が経過しており、経年劣化が見られます。一番古い1・2号館については、2021年度に大規模な内装リニューアル工事を実施しました。今後も回収箇所や点検など学び舎の安全確認を進め、安全で問題のない改修を計画的に検討し進めて行きます。

設備備品に関しては、故障や不具合がある度にすぐに修理をおこなっています。現状で経年劣化が一番激しい3号館の空調については、2023年度に取り替えを実施しました。

改修には多額の資金が必要になります。

今後も校舎の内部・外部・設備備品も含め優先順位を見極めながら、計画的に改修を実施していく予定です。

教育のオンライン化・デジタル化には、プロジェクトを組んで積極的に取り組んでいます。時代の変化をしっかりと視野に入れて、検討し実施していきます。

学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等については、2022年度もコロナ禍による影響が大きく、中止や実施内容の見直しなどが相次ぎました。2023年度は以前のように積極的に実施し2024年度も継続していけると思います。

防災については、法令に則った避難訓練の実施、避難マニュアル・防災計画などの定期的に実施しています。

学校での事故や天災対応など本当の事故や天災に備え、2023年度に常日頃緊急防災対策指針を定めています。

### ② 今後の改善方法

劣化した設備備品の更新を推進します。  
教育のオンライン化・デジタル化を推進します。

## (7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
③ 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

### ① 課題

学生募集活動のコンプライアンスに問題はないと判断しています。

本学園理事長が福岡県専修学校各種学校協会の会長でもあり、特に出願時期の申し合わせについては厳守し、総合型選抜入試についての競合で地元専修学校が不利にならないように、福岡県の高校進路協議会の理解も得て、2022 年度からは、総合型選抜入試に係るエントリー時期を7月1日からと定めていただきました。

課題は、学生数確保です。適正な活動を継続しながら、学生数を確保していくことが最大の課題です。2025 年度の学生募集活動の結果として、入学生は 272 名、確保致しました。しかし、前年度より+12 名の結果となりました。

学校として、ひきつづき募集に注力します。

尚、目標数値に達成することが出来なかった要因としては、ファッション・ファッションクリエーターの不足が原因と考えます。

トップスタイルスト・美容に関しては、定員達し締め切ることも出来ました。

学納金については募集要項に明記し、適正なものとしています。

### ② 今後の改善方法

ファッション分野への学生獲得 高校訪問等の強化  
メイク(ビューティーアドバイザー)に特化した学生の獲得

## (8) 財務

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

### ① 課題

入学生の推移が前年度の増加から、今年度は減少となりました。

入学生の安定的な確保が図れず、結果、資金繰りは不安定な状況が続きます。多額な資

金が必要となる事業に関しては慎重な判断を今後も要することになります。しかし、校舎設備の老朽化に伴う更新など後回しにできない事業も滞っており、資金計画の見直しを行い、計画的な資金運用を行います。

## ② 今後の改善方法

上記の課題を乗り越える長期経営計画の見直しを行います。事業活動収支の収入超過だけでなく、資金収支において、前年度末資金残高より当年度末資金残高が上回る予算になる経営戦略の見直しを図り、新校舎建築資金や校用地取得のための資金繰りも含め進めています。

今後、美容・メイク・ファッション並びに GB 校共に入校希望者の増加が見込まれるため、長期的な観点での資金繰りも計画的に進められる見込みが高く、経営戦略に組み込み進めて参ります。

また、昨年度からはじめた経理業務の電子システム化を完了に近く、併せて業務の効率化と予算管理のリアルタイム化を図り、資金の適切な支出活用に努めて参ります。

## (9) 法令等の遵守

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
② 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4	③	2	1
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
④ 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

## ① 課題

個人情報に対する社会的な意識の変化や、SNSなど情報の漏洩環境の多様化などによって、個人情報を取り巻く状況が年々変化しており、それに対応した取り扱いが求められます。

そのような変化に注視をしていきながら、取り扱いの方法などを変えていくのはもちろんの事ですが、それを取り扱う教職員1人1人の意識が時代遅れになってしまわないような意識の更新をおこなっていく必要があります。

## ② 今後の改善方法

個人情報を取り扱う教職員に対して、情報や知識のアップデートをおこなっていく。

教職員を初め学生についても教育機会を増やし、情報漏洩の重大性や管理の大切さなど学内での教育強化を進めて行きます。



## (10)社会貢献・地域貢献

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	①

### ① 課題

地域貢献としては、学生主体の自主組織による町内会イベントへの協力等を実施し夏祭りや・運動会への参加が出来ました。

またボランティア活動として、「ワールド・ビジョン」と題し、小児がん等にて毛髪を無くした小学生に対して、ウィッグを作成し九州大学病院に寄付を行いました。

卒業生の力を借りて、オーデザインズにて美容施術の募金活動を行い

240名の参加いただき、569,265円の募金が集まりました。

学生も学び体験することで社会情勢にも関心が出ておりました。

高校依頼によるインターンシップ(職業理解制度)や、中学校依頼による職場体験では(福岡県内・大分中津)38校の学生を受け入れ実施しました。

学生への社会貢献の喜びも併せて学んで欲しいと要項にて継続していきたいと思います。

## 学校関係者評価

### 【企業様のご意見】

#### 企業様①

就職後、学生から社会人への変化の中で、自ら先輩や上長に分からないところを聞くことと自らの失敗経験を踏んで覚えるなどの経緯が大変重要です。

大村美容ファッション専門学校では学生自らが少しでも経験を積むことで技術職として大成し得る学び舎と思われ、その教育指針や運営、方向性も賛同ができるもので安心してしています。

#### (学校長)

教職員全員、学生に対しても自分たちが自分たちで計画して自分たちのためにやるという自主性を重んじた指導を進めています。

#### 企業様②

グローバルビジネス専門学校がありますが、全国的にも外国の方が増えてきているように思います。

大村グローバルビジネス専門学校は就職率も高いようで時代の変化に相応した教育を変化に合った革新改定などを進められているように思います。

私の経営する美容室には日本人もと外国人の方も顧客としてお越しになりますが、顧客に対するサービス度合いは均一であり関連はないので日本の少子化の元、外国人の美容師も出てくる時代になるかもしれないと感じています。

#### (理事長)

日本人学生自体は大学、短大、専門それぞれ減少傾向ですが、外国人は微増となっています。今後の少子化対策をどうして行くのか詳細を鑑み実践対応していきます。

#### 企業様③

学校運営だけでなく、企業においても新人教育もそうですが、挨拶・規律・自主という所が欠落しつつあります。

上司や上長から言われて動く人材ではなく、自主性を重んじることは結果的に自主的に気づき、改善していける人の育成であって、大変ありがたく期待大で御座います。

大村美容ファッション専門学校様は学生時代にインターシップ経験後に就職を進めるなど、産学協同を推進して戴けることは、企業側としてもまた、学生が就職先を知るためにも大変良い事ですので今後も進めて頂きたい。

#### 【OG 前校長先生のご意見】

学生との係わりについて、成長の過程で学生自身の自己評価が低くなってきているように思える点があり、教員がその点をフォローすると良いように思います。

教職員も学生も共に成長し、ともに笑いながら学べる環境になっていけると思います。

#### 【保護者代表様のご意見】

①現代の先生方は、親世代(保護者)である私たちの時代の先生方とは異なり、大変お優しいと思いました。

時代の変化と流れでもあると思いますが、一昔前の先生方の厳しさがあったからこそ、私たちは今頑張れているように思います。

子供たち自身が自主性を重んじられることは、自立のために大変良いと思います。

コロナ時はなかなかその辺りのご指導は難しかったと思います。

親として子供が体調不良時に学校に行かせるかどうかの判断も最近は難しいですが、話を聞く中では頑張って登校し学んでいて、卒業式で多くの学生が多くの資格を取得して頑張っているのを見て取れます。

②学生の SNS 利用や個人情報に対する良し悪しの対応なども先生方を初め、各学生へ専門家の講習などを取り入れられていることで、SNS の怖さや注意喚起も進めておられるということで安心します。

③台風や積雪による警報対応時に遠方からの通学の学生への連絡網など事故につながる事が無いよう御配慮を御願います。

④学生(高校生)が進路を選択する段階において個々の学校(高校)の進学支援など現在の大村美容ファッション専門学校は入学の案内や在り方をについても学生の選択しやすい形で進めておられるようで、今後も時代に即した学生主体のガイダンスなど進めて頂ける様願います。

#### 【町内会代表様のご意見】

グローバルビジネス専門学校の学生様方が、町内のイベントコミュニティーに参加され、地域貢献に尽力してもらうとともに大変素直でキチンとしたコミュニケーションをとられることに大変良い印象があります。

今後も地域の活性化と地域支援としても貢献して頂けることがあれば、是非とも願います。

**【理事長、学校長】**

戴きましたご意見とご要望等を2025年度の学校運営に反映させ、今後も学生の自主性を重んじ、また自らが人柄を磨き、総合的な技術力と職業能力を併せ持ち合わせた立派な社会人として貢献する逸材の育成と排出に尽力して参ります。

**■学校関係者評価委員会の総合的評価結果**

昨年2023年度の自己点検評価結果は、総合判断点では 3. 51点  
(前年2022年度より僅か0.01ポイントアップの評価点)僅かなアップ。

2024年度は、3. 58点と2023年度との対比では0.07ポイントアップ。

今後もこれに慢心することなく、学生のため更なる向上を目指し挑戦を続ける。

2024年度は新校舎の稼働と設備備品など物理的の充実を推進。

2025年度は、学生のために更なる学習環境の整備と教職員のスキルアップを進め、  
将来の学校ビジョンを実践化していく。

「学生満足度の向上」と共に「充実した学校運営」となるよう教職員一同邁進する。